会 議 名	第3回 区立保育園ネイティブティーチャー派遣事業候補者選考委員会
開 催 日 時	令和7年3月10日（月）午後2時から午後3時30分まで
開 催 場 所	港区役所9階 914会議室
委 員	（出席者）5名 田中委員長、中島副委員長、石鍋委員、野澤委員、小野口委員 （欠席者）なし
事 務 局	子ども家庭支援部子ども政策課長、子ども政策推進係長、子ども政策推進係
会 議 次 第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 （1）A事業者（30分間） 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 その他 6 閉会
配 付 資 料	資料1 第二次審査実施概要 資料2 第二次審査採点基準表（1事業者分） 資料3 第一次審査・第二次審査集計結果（※採点終了後、机上配付） 資料4 第2回選考委員会議事録概要 参考資料1 第一次審査集計結果 参考資料2 事業候補者選考基準 参考資料3 仕様書
会議の結果及び主要な発言	
（発言者）	1 開会 （委員長より開会の挨拶） （事務局から配付資料の確認）
A事業者	2 第二次審査実施概要について （事務局から資料1について説明） 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 【A事業者のプレゼンテーション】 （企画提案書の説明）
B委員	【A事業者のヒアリング】 「園児・児童・生徒・保護者・教員との間にトラブルが発生した場合」の対応について、提案書記載の時間軸だけを見ると、対応が遅いように感じます。トラブルは初期対応が重要であるため、実際にトラブルが発生した場合の対応に

	<p>ついて、補足も含め具体的に説明してください。</p>
A事業者	<p>迅速な対応という点で、園からトラブルの発生について連絡をいただいた際に、本社からすぐに現場に駆けつけるということを、原則、必ず対応させていただいております。</p> <p>提案書においては、ネイティブティーチャーへ一定の指導をしてから、必要な場合には別のネイティブティーチャーへ交代するということを表現するために、このような記載としておりますが、園に確認した上で、今後継続して配置することが明らかに適当でない判断した場合には、園や子ども家庭支援部と協議し、即時に交代を判断することも考えています。</p>
B委員	<p>即交代と判断する場合には、どのような事例があるのでしょうか。</p>
A事業者	<p>即交代となった事例は、弊社でもこれまでほとんどありませんが、例えば、ネイティブティーチャーが子どもたちを傷つけてしまったり、もう今後指導しても改善が見込めない、又は園の先生方や子どもたちとの信頼関係を今後築いていくことが難しい場合を想定しています。このような場合には、提案書に記載している時間軸にかかわらず、園や子ども家庭支援部と相談した上で即交代とします。</p>
B委員	<p>首都直下型地震のような自然災害発生時の緊急対応については、どのような対応を想定していますか。</p>
A事業者	<p>自然災害が起こった際には、本社の中に緊急対応体制本部というものを設置するとともに、弊社では各ネイティブティーチャーの安否確認を行うシステムを導入しており、勤務中・勤務外のステータスや、現在の勤務場所などの情報を、リアルタイムで本部と共有できる体制としています。</p> <p>このような体制のもと、首都直下でネイティブティーチャー自身が被災をしているような状況のとき、帰宅方法やその他各ネイティブティーチャーに必要なサポートについて、弊社の方で責任を持って行います。</p> <p>また、園での勤務中に災害が起こった場合には、ネイティブティーチャーと園・子ども家庭支援部との間に、必ず弊社が入って対応いたします。</p>
B委員	<p>園での活動中に自然災害が起きた際には、ネイティブティーチャーがご自身の判断で、園児の安全を守ることも出てきますが、そのような場面を想定した訓練は行われていますか。</p>
A事業者	<p>保育園や学校での活動中、災害により避難が必要となった場合、現場の保育士と協働しながら、子どもの安全を守るためにどう行動すべきか、採用時・配置後研修における基本的な研修コンテンツとして、実践的なドリル形式で実施しています。</p>
A委員	<p>ネイティブティーチャーの活動内容について、自由遊びの場面でも子どもに関わるというお話がありましたが、そういった日常保育の中で、ネイティブティーチャーがどのように保育士と連携して動くのか、もう少し具体的にご説明ください。</p>
A事業者	<p>日頃から、保育士とネイティブティーチャーが打合せ等を通じ、密なコミュニケーションを図ることが重要と考えており、ネイティブティーチャーは配置前の打合せのみならず、毎回の活動後に行う振り返りの中での意見交換等を通じ、信頼関係を築きながら保育士と連携して活動を行います。</p>
A委員	<p>ネイティブティーチャーは保育士とのコミュニケーションは基本的には日本語</p>

	で行うのでしょうか。
A事業者	お見込みのとおり、保育士とは基本的に日本語でコミュニケーションを取る想定です。
A委員	不適切保育防止については、特に配慮が必要な部分と考えますが、定期的に不適切保育防止の研修を行われているとのことでしたので、その内容についてより具体的にご説明ください。
A事業者	企画提案書に記載している、ネイティブティーチャーへ不適切な行動を行わないことへの同意書をリマインドの意味も込めて年5回提出してもらうことに加え、大体隔月にはなりますが、こちら年5回、研修の中で不適切行動をトピックとして取り上げたケーススタディを実施しています。 単に不適切行動をしてはならないと説明するだけでなく、不適切保育が発生しやすい場면을例示し、自分であったらどういう行動をするかネイティブティーチャー自身に考えてもらいながら、本社の営業担当やコーディネーターも交えて学ぶことで、効果的な不適切保育防止に取り組んでいます。 また、研修の中では、例示した不適切事案に限らず、ネイティブティーチャーたちが過去に実際に直面したケースについても積極的に意見交換する機会を設けており、事例を積み重ねることで全ネイティブティーチャーの共有経験値にしていくことにも、全社を挙げて取り組んでいます。
D委員	業務の実施体制について、仮に翌年度から本業務を受注したとして、提案書の業務実績を見ると、各業務担当者の掛け持ち業務が非常に多くなりそうですが、コーディネーター等による年3回の保育園への定期訪問など、変わらず提案書どおりの実施体制を構築できるのでしょうか。
A事業者	提案書に記載しているのは、あくまで提案書作成日での実績ですので、仮に本業務を翌年度から実施する場合は、担当の調整はさせていただく前提です。 新年度から社の体制も変わりますので、今各担当者の実績に記載している業務を別の担当に移すなど、少し絞っていくことや、現在ここに記載できていない担当者も追加し、複数人でローテーションできる体制とする予定です。 また、園への定期訪問は年3回と書かせていただいておりますが、何かあったらすぐに園とお話ができる体制をとりたいと思っております。
D委員	これまで幼稚園や小学校への派遣実績があるようですが、保育園ならではの新しい取組があればお聞かせください。
A事業者	これまで幼稚園や小学校では、子どもたちに何か教えるような、教育的な活動も多くしてきましたが、保育園では日常生活の中に外国人の先生がいて、自然に異文化へ触れることを大切にしていきますので、こういった子どもたちとのかかわり方が効果的かというのを、ネイティブティーチャー間でしっかりと共有して経験値を積み上げていきます。 また、発展性という点で、今まで小学校で実施したことはありましたが、保育園でも、たくさんのネイティブティーチャーを一度に集めて、例えばカウボーイハットなどの小道具も交えながら、イベントのような形で他国の文化に触れる機会も設けたいと考えております。
D委員	提案書にある「日本人保育士のためのスキルアッププログラムの提案」とは、具体的にどのようなものなのでしょうか。
A事業者	ネイティブティーチャーの母語である英語について、クラスルームイングリッシュのような、日常生活の指示を英語でパッと出せるものなどを身に付けられ

	るプログラムを提案したいと思っております。
E委員	ネイティブティーチャー派遣に対する考え方について、提案書には「学校教育推進計画」や「幼児教育振興アクションプラン」など、教育を意識した記載が多いように感じますが、本事業の目的を踏まえ、保育園で活動する上での方針について、より具体的に説明してください。
A事業者	子どもたち同士の主体的な関わり合いの中で、どのようにお友達と人間関係を作っていくのか、ネイティブティーチャーは、その子どもたちの学びの環境の一部だと考えております。 英語を教え込むのではなく、子どもたちと一緒に時間を過ごしながら子どもたちの「英語って楽しそうだな」「自分も使ってみたいな」などの感情を引き出すことで、異文化への興味につなげることを、今回の派遣事業で一番大切に考えています。
C委員	ネイティブティーチャーへ実施する研修について、かなりの時間数の研修実施が計画されているが、具体的な実施スケジュール等を確認したい。
A事業者	【様式7】2(2)について、①から⑨までの研修を記載していますが、まず①から③までは4月の配置が始まる前に実施し、配置後は④から⑦までの研修を提案書に記載している月に実施していくこととなります。 ⑧の活動オブザベーションについて、随時実施というふうに記載させていただいておりますが、具体的には各ネイティブティーチャーにつき、少なくとも年2回実施することを想定しております。このときヘッドティーチャー(担当講師管理責任者)が活動視察として各園を巡回しますので、活動内容のみならず担当ネイティブティーチャーのコンディションを確認するなど、業務以外の面でのケアもするようにしています。また、課題ありと判断した場合などは、随時追加で活動を観察し、必要なフォローアップをいたします。 ⑨メンター制度の面談についても、随時実施と記載していますが、月に1回の定例研修の際に必ずネイティブティーチャーと顔を合わせることにしています。
C委員	ネイティブティーチャーは、年間通じて担当の1園のみで活動するのでしょうか。1園分の担当であればこのボリュームでも受講可能だと思いますが、2園以上の担当を掛け持っているネイティブティーチャーが全ての研修を受講するのは、分量的に難しい面もあるのではと感じます。
A事業者	15名のネイティブティーチャーがそれぞれ何園担当するかに関してですが、お盆の期間等も活動がある中で、ネイティブティーチャーも年休を取る必要がありますので、区と相談したうえでのアイデアとして考えているのが、8名がそれぞれ2園を担当する主担当として配置し、残り7名を主担当の年休等による不在を補う役割として配置しようと考えております。 また、ネイティブティーチャーの勤務時間は午後1時30分までとなっておりますので、基本的に研修は園での勤務後に行うため、無理なく受講できる計画となっております。
C委員	宗教的信仰、LGBTQ及び障害がある子どもたちに対して、どのように関わっていく想定でしょうか。 また、子どもや保護者に対するハラスメント防止についても、どうお考えかお聞かせください。
A事業者	宗教的信仰やLGBTQ及び障害について、ひとくくりとしてしまうわけではありませんが、これらに共通する人権という部分に関しての教育については、

	<p>オンラインコースの①採用時研修前準備や③の採用時集合研修の中で、個々の人権を尊重することについて重点的に指導するとともに、各ネイティブティーチャーの持つ思想が差別として表出することのないよう徹底して取り組みます。</p> <p>また、特別な支援が必要な子どもに対する取組という部分で、補足資料の6ページにも記載しておりますが、英語版の特別支援学校向けのインクルーシブ教育教材やプログラムも作成しているため、これらのノウハウを研修の中にも取り入れていきます。</p> <p>【A事業者のヒアリング終了】</p> <p>(採点)</p> <p>(事務局による採点集計)</p> <p>4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について</p>
委員長	採点の集計結果について事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>A事業者について、一次審査の得点は866点でした。</p> <p>集計の結果、二次審査の得点は418点となりましたので、一次審査と二次審査の合計点は1,284点です。これは75%強の得点率となり、満点の6割を超えているという状況です。</p>
委員長	この結果を受け、審査に当たり各委員の皆様から講評をお願いします。
B委員	<p>【二次審査の講評】</p> <p>全体として一定の評価をしましたが、説明を聞いていて今後の課題も多いと感じました。</p> <p>企画提案書自体は非常にいいと思いましたが、プレゼンテーションやヒアリングの中で、言葉数は多いのですが、提案書以上の具体的取組はあまり出てこない印象でした。</p> <p>保育士にとっては、ネイティブティーチャーが保育の中に入るのは初めてのことであるため、不安感もあると思います。そのような中で、園を巡回するコーディネーターの方などが事業趣旨を踏まえた具体的な話ができないと、現場の保育士と円滑にコミュニケーションを取れないのではと懸念します。</p>
A委員	<p>計画されている研修は理論的な内容と実践的な内容を、両方取り入れており、ケーススタディやディスカッションによって事例を共有することで、ネイティブティーチャー全体で知識や経験を蓄積している点を特に評価しました。</p> <p>新しい事業のため、仮にこの事業者が本事業を受注することになるのであれば、今後区とコミュニケーションを重ねていく中で、お互いに学び合い、新たに見つかった課題点があれば改善していくことを期待します。</p>
D委員	<p>ヒアリング等でのやりとりを通じ、全体としての評価はおおむね良なことに加え、必要な場合には区の意向を汲んである程度柔軟に対応できると感じられる点なども評価しました。</p> <p>また、園とのコミュニケーションに当たっては、説明が保育士にとってもわかりにくくならないよう、説明の仕方に気を付けていただくよう指導していくべきと考えています。</p>
E委員	ヒアリングの中で事業目的と提案書における基本理念がずれているのではないかと質問しましたが、教育関係の計画等に沿った考え方でなく、本事業の趣旨を踏まえた取組をしっかりと考えていることが確認できましたので、全体と

	<p>しておおむね良と評価しています。</p>
C委員	<p>これまで幼稚園、小学校、中学校への派遣実績がある事業者のため、こちら側にアピールしたいのか、提案書を見ると小学校へ向けての教育という側面が強く出ている印象を受けました。</p> <p>実際にどのようなイメージをしているのか、現段階で正確にはわかりませんが、保護者や区に対して目を向け、このような考えとなっているのであれば、保育園では準備教育という意味合いでなく、活動を通じ、英語や異文化に触れること自体の楽しさや面白さを、子どもたちに日常生活の中で感じさせてあげてことをより意識するよう、区から指導していく必要があるかと思いました。</p> <p>また、ネイティブティーチャーが1日のうち園に滞在する時間もそこまで長くないので、ある程度制約はあるのですが、活動内容について特筆した発展性が見られなかったこともあり、提案の発展性の評価を低めに付けています。</p> <p>提案書やプレゼンテーションの中では表現しきれなかった部分もあるのかもしれませんが、現場の保育士の意見も取り入れたりしながら、もっと色々な活動のアイデアを考えてもらえればよかったなという、今後への期待も込めて点数を付けました。</p>
委員長	<p>各委員の講評を踏まえ、点数等の変更はありますでしょうか。</p>
委員一同	<p>(意見なし)</p>
委員長	<p>採点に変更がなかったため、一次審査、二次審査の合計点は先程事務局から説明があったとおりとし、A事業者を区立保育園ネイティブティーチャー派遣事業候補者としてよろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>(異議なし)</p>
委員長	<p>それでは当委員会として、A事業者を区立保育園ネイティブティーチャー派遣事業候補者として選定いたします。</p> <p>事務局から事業者名の発表をお願いします。</p>
事務局	<p>(事務局から事業者名の発表)</p> <p>5 その他 (事務局から事務連絡)</p> <p>6 閉会 (委員長閉会のあいさつ)</p>